

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103466
法人名	(有)ケイ・エム・エス
事業所名	グループホームさしもも
所在地	松山市高岡町617番地
自己評価作成日	平成23年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 23 年 2 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、毎朝のミーティング時に「介護のコツ10カ条」「1日の五心」を唱和し、日々のケアの向上につなげている。午前中は、近隣の安全な道路を散歩、午後より、レクリエーションの一環として、「健口」体操を実施している。身体の体操から、声を大きく出して、発声して頂き、その後は、職員が各々考えた塗れ絵、歌すごろく、工作など利用者とともに楽しく行っています。個性溢れる職員のもと、利用者も楽しく笑い声の絶えない楽しいホームです。ホーム近くの協力医療機関とは24時間体制での連携をとり、緊急時にも対応でき、往診もある。また、歯科医とも協力関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関が母体であるため、適切な医療を受けることができる。また、運営法人や系列の法人は、様々な福祉事業を展開しており、状況によって活用することも可能である。事業所は、民家を改築したユニットと、2階建てのユニットを廊下で行き来することができ、ユニットごとに趣がある。自治会にも入会し、回覧板などを通じて情報を得て行事等にも参加するなど、利用者が近所の方と顔見知りになれるよう関係づくりにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

**ホップ 職員みんなで自己評価!**  
**ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!**  
**ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!**  
  
**ーサービス向上への3ステップー**

<b>事業所名</b>	グループホームさしも
<b>(ユニット名)</b>	さしも(1)
<b>記入者(管理者)</b>	
<b>氏名</b>	尾崎 美香
<b>評価完了日</b>	23年 1月 19日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設時にホーム独自の理念を作成し、玄関に掲げて全職員が共有し、実践に努めている。毎朝のミーティング時には「介護のコツ10カ条」「1日の五心」を唱和し、ケアの向上につなげている。</p> <p>(外部評価) 開設時に作成した理念を基本として実践に努めている。毎朝ミーティングで「一日の五心」を唱和して意識づけしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入会しており、回覧板が回ってくる。地方祭では神輿を見に出かけるなどして楽しんでいるが、地方活動への参加や近所との付き合いが十分出来ていない。</p> <p>(外部評価) ホームの経営母体である医療機関が近所にあり、地域の一員として認知されている。自治会にも入会し、回覧板などを通じて情報を得ている。利用者が近所の方と顔見知りになれるよう関係づくりにも取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 出来ていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの生活の様子や現状報告等を行い、意見や情報等を得るようにしているが、参加者(家族様)からの意見が多いとは言えない。今後 も、質問・意見・要望を受け双方向的な会議となる様にする。	
			(外部評価) 運営推進会議では、利用者の状況を実際に理解してもらおうよう詳しく報告している。また避難訓練を組み込み、第三者や専門的な立場の方から助言をもらっている。	地域に開かれた事業所として、サービスの質の向上につなげていくために、参加メンバーに様々な立場の多くの方に参加してもらい、規定数の開催ができるよう努力が求められる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護認定の際には担当者と連携を図り、また運営推進会議においてはホームの情報を伝えている。生活保護受給の利用者についても、市の担当者との情報共有に努めている。	
			(外部評価) 介護保険の担当に加え、生活全般について行政窓口と良好な関係にあり、相談しながら課題の改善に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員が正しく認識しており身体拘束のないケアに取り組んでいる。転倒防止(夜間)の場合、家族合意のもとに実行しているが、自立支援を目指している。	
			(外部評価) 職員は身体束縛をしないケアを実践している。事故防止のため、階段が使用できないように鍵をかけているが、エレベーターを自由に使って上がり下りすることができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今のところ、対応が必要と思われる利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み対応可能な範囲について説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が来訪した際には情報、家族からは極力、意見や要望を伝えてもらっている。ホーム内及び外部の苦情相談窓口を明示し、利用開始時に説明している。	
			(外部評価) 家族が自由に来訪し利用者と散歩に出たり、居室でゆっくり利用者と共に過ごしてもらええる雰囲気をつくり、意見や要望を気軽に話せるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 職員は、毎朝のミーティングや二カ月に一回の会議で思いや要望を話し合い、また日々のケアの中でコミュニケーションを図り、その中で聞き取ったことを管理者や計画担当者が代表者に伝えている。</p> <p>(外部評価) 毎朝のミーティングや会議だけでなく、日常のあらゆる場面において管理者と職員の隔たりがなく、自由に発言することができ、話し合って実現できるよう取り組みがなされている。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 出来る限り利用者様の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 研修などの参加を心掛けている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 出来ていない。</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 利用者様の意見を尊重している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族と同じ思いで支援していきたい。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 福祉用具以外今のところ他のサービス利用ケースはありません。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援する側、支援される側という意識を持たずお互いが共同しながら和やかな生活、安心できる生活の場をつくる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の方と同じような思いで支援していきたいと考えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 面会時には、居室又は談話室を利用して頂きゆっくりして頂ける様努めている。  (外部評価) 家族を通じて友達や、古くからお付き合いしている方にホームに寄っていただけるよう呼びかけてもらっている。また、外出時には自宅の周辺を通るように工夫している。馴染みの美容院にも出かけてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど利用者同士の関係がうまくいくよう職員が調整役となって支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談できる体制に出来ている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者に積極的に声を掛け、特に入浴や散歩時等リラックスした時に話を聞く事で要望や思いを聞き取っている。会話から把握することが困難な利用者には、行動や表情等からも思いを把握するように努めている。 (外部評価) 趣味や食べたいもの、やりたい事など、利用者に好みを伝えてもらえるよう常に働きかけている。日頃、接する中で本人の意向を汲み取る努力もしている。得た情報は、フェイスシートに記録してホーム全体で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴についてはまだまだ分からない事があるが、会話や日々の生活の上で把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの生活のリズムを理解すると共に行動や小さな動作から感じ取り本人の全体像の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 各利用者担当職員が生活の様子や健康状態を「アセスメント要約表」にまとめ、ミーティングで報告し、全職員で検討を加えたうえで介護計画を作成している。基本的には三カ月ごとに見直しているが、状態変化によっては随時の見直しを行い、柔軟な対応に当たっている。</p> <p>(外部評価) 担当職員が利用者の状態・問題点を把握して、アセスメントシートを作成し、当日勤務している職員でミーティングを行い検討し、介護計画を作成している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 一人ひとりの日々の様子で、気づき、身体的状況を経過記録に記入し、職員全員で情報を共有し実践して介護計画に活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 現在までケースはないが、グループ内の他事業所を利用することは可能である。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 現実にあまり出来ていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 事業所の協力医の他受診の通院は本人や家族の希望に 応じて対応している。	
			(外部評価) かかりつけ医の受診は基本的には家族が対応してい る。日頃の健康状態や生活の様子についてはお薬手帳 に記載してホーム全体で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医院との看護師とは日頃の健康管理や医療面での 相談・助言・対応を行ってもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には頻繁に職員が見舞うようにしている。ま た、家族とも情報交換している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 地域関係者とのチーム支援は出来ていない。本人、家 族さんの意向を踏まえた上で急変時等には家族と管理 者又はケアマネが同席し主治医と最善の方法で話し合 う。看取りについては、現時点では対応していない。 利用開始時に利用者及び家族に説明し、理解を得てい る。	
			(外部評価) 運営法人が様々な福祉施設や事業を展開しているの で、母体である医療機関の医師と家族の話し合いで、 利用者にとって安心できる方向を決めている。	管理者は常にホームや職員の力量を見極め、事業所と しての対応指針をつくり方針を共有しておく事が求め られる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 近隣に主治医がいて24時間連絡をとれる体制にある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルと緊急連絡網を作成し、事務室に備えている。消防署の指導のもと、年一回の避難訓練を行っている。避難所は確保しているが、地域との協力は得られていない。  (外部評価) 夜間想定避難訓練を行い、2階からの避難が困難であることや、一時避難場所の確認が必要であること気づき対応を考慮している。夜間は特に近隣の援助が必要であり、普段から地域とのつながりを大切に、利用者の状況を知ってもらうなどの取り組みをしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報の保護について十分理解した上で日々のケアに当たっている。一人ひとりを尊重し、日々の声掛けにも注意している。事柄によっては、居室で個別に話し合うこともある。  (外部評価) 職員の守秘義務を徹底している。プライベートな空間におけるプライバシーへの配慮や、個人の尊厳を傷つける事がないように声かけにも気を付けている。また、書類の保管にも細心の注意を払うなど十分な対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴や食事、おやつなど自己決定して頂いているが毎日ではない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしい暮らし、日々大切にしているが時には職員側の都合を優先する場合もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替え時は出来るだけ本人の意向で決めている。髪型等も本人様の希望を取り入れ、馴染みの方の訪問カットもある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎月一のかつ日の昼食は、利用者の喜ぶお寿司である。職員は、支援の必要な利用者の傍に寄り添ってさりげなく介助し、利用者の誕生日には、家族を交えて外食を楽しんでいる。職員は、利用者が食事をすませた後で、各自が持参したものを食べている。 (外部評価) 栄養士が栄養バランスやカロリーを考えて立てた献立をもとに、利用者の好みを考えてメニューの工夫をしている。誕生日には家族を交えて外食を楽しむ事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの方にあつた食事提供、水分摂取拒否みられる方には、声掛けしながら飲用して頂ける様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 就寝時、職員の見守り、介助で口腔ケアしている。また義歯は専用容器にポリドントを入れて衛生面に気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表で利用者ごとの排泄状況を詳細に記録して、排泄パターンを把握している。排泄パターンによってさりげなく声掛けや誘導するなど、排泄の自立に向けた支援に努めている。便秘がちな利用者については医師の指示を仰いでいる。	
			(外部評価) 排泄チェック表をもとにパターンをつかみ声かけと誘導をこまめに行い、トイレでの自立した排泄を目標にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々に対応して水分補給・咀嚼の声掛け、廊下での歩行運動に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週に二回は入浴出来るよう支援している。羞恥心や恐怖心を与えない様、タイミングを見計らって声掛け、ゆったりと入浴を楽しんでもらっている。	
			(外部評価) 入浴表を作成して週2回の入浴ができるよう支援している。入浴剤を使用し、利用者が気持ちよく入浴できるよう努めている。また、介助が必要な利用者については福祉用具を活用するなど、安全で安楽に入浴が楽しめるよう努めている。	利用者一人ひとりの生活習慣やその時々気持ちを大切に、利用者が好きな時に気持ちよく入浴できるよう支援していくことが求められる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々にお薬手帳を設けている。服薬時は、本人手渡し、きちんと服用できているか確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居前の生活スタイルを考慮しそれを活かした支援、その人らしい生活の支援。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者は、日常的に近隣の安全な道を散歩したり、近くの公園に出かけている。誕生日には家族を交えて外食を楽しんでいる。	
			(外部評価) 交通量の多い地域なので、職員が少人数で交代で付添ながら散歩に出かけている。空港や海岸も比較的近いので、気分転換を兼ねて車で出かけて散歩を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に外出時本人が支払って頂く工夫。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せる様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 民家を改修したユニットと、隣接した2階建てのユニットは、廊下伝いに行き来できる。廊下には外出時の写真や折り紙等を飾っている。談話室もあり、来訪者もゆったりと過ごして頂いている。	
			(外部評価) 民家を改築したユニットと、2階建てのユニットを廊下で行き来することができ、解放感がある建物である。ユニットごとに趣があり、それぞれの良さが感じられる。談話室があり、来訪者や職員もゆっくり過ごす事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 広い和室やベランダもあり、独りでくつろげたりお茶を飲む事ができるスペースあり。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた馴染みの家具や好みの物を持ち込まれている。	
			(外部評価) 居室は小ダンスや小物入れ、テレビ、冷蔵庫、ソファやいす、仏壇、家族の写真、趣味の品など自由に持ち込み、居心地のよい空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 家庭的な建物であり、手すり、バリアフリーにもなっていて安全に生活が送れている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103466
法人名	(有)ケイ・エム・エス
事業所名	グループホームさしもも
所在地	松山市高岡町617番地
自己評価作成日	平成23月1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 23 年 2 月 9 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は、毎朝のミーティング時に「介護のコツ10カ条」「1日の五心」を唱和し、日々のケアの向上につなげている。午前中は、近隣の安全な道路を散歩、午後より、レクリエーションの一環として、「健口」体操を実施している。身体の体操から、声を大きく出して、発声して頂き、その後は、職員が各々考えた塗れ絵、歌すごろく、工作など利用者とともに楽しく行っています。個性溢れる職員のもと、利用者も楽しく笑い声の絶えない楽しいホームです。ホーム近くの協力医療機関とは24時間体制での連携をとり、緊急時にも対応でき、往診もある。また、歯科医とも協力関係を築いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療機関が母体であるため、適切な医療を受けることができる。また、運営法人や系列の法人は、様々な福祉事業を展開しており、状況によって活用することも可能である。事業所は、民家を改築したユニットと、2階建てのユニットを廊下で行き来することができ、ユニットごとに趣がある。自治会にも入会し、回覧板などを通じて情報を得て行事等にも参加するなど、利用者が近所の方と顔見知りになれるよう関係づくりにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームさしも

(ユニット名) ユニット(2)

記入者(管理者)

氏名 尾崎 美香

評価完了日 23年 1月 19日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設時にホーム独自の理念を作成し、玄関に掲げて全職員が共有し、実践に努めている。毎朝のミーティング時には「介護のコツ10カ条」「一日の五心」を唱和し、ケアの向上につなげている。</p> <p>(外部評価) 開設時に作成した理念を基本として実践に努めている。毎朝ミーティングで「一日の五心」を唱和して意識づけしている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 自治会に入会しており、回覧板が回ってくる。地方祭では神輿を見に出かけるなどして楽しんでいるが、地方活動への参加や近所との付き合いが十分出来ていない。</p> <p>(外部評価) ホームの経営母体である医療機関が近所にあり、地域の一員として認知されている。自治会にも入会し、回覧板などを通じて情報を得ている。利用者が近所の方と顔見知りになれるよう関係づくりにも取り組んでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 出来ていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) ホームの生活の様子や現状報告等を行い、意見や情報等を得るようにしているが、参加者(家族様)からの意見が多いとは言えない。今後も、質問・意見・要望を受け双方向的な会議となる様にする。	
			(外部評価) 運営推進会議では、利用者の状況を実際に理解してもらおうよう詳しく報告している。また避難訓練を組み込み、第三者や専門的な立場の方から助言をもらっている。	地域に開かれた事業所として、サービスの質の向上につなげていくために、参加メンバーに様々な立場の多くの方に参加してもらい、規定数の開催ができるよう努力が求められる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 介護認定の際には担当者と連携を図り、また運営推進会議においてはホームの情報を伝えている。生活保護受給の利用者についても、市の担当者との情報共有に努めている。	
			(外部評価) 介護保険の担当に加え、生活全般について行政窓口と良好な関係にあり、相談しながら課題の改善に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアに取り組んでいる。転倒防止(夜間)の場合、家族合意のもとに実行しているが自立支援を目指している。	
			(外部評価) 職員は身体束縛をしないケアを実践している。事故防止のため、階段が使用できないように鍵をかけているが、エレベーターを自由に使って上がり下りすることができる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今のところ、対応が必要と思われる利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み対応可能な範囲について説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族が来訪した際には情報、家族からは極力、意見や要望を伝えてもらっている。ホーム内及び外部の苦情相談窓口を明示し、利用開始時に説明している。	
			(外部評価) 家族が自由に来訪し利用者と散歩に出たり、居室でゆっくり利用者と共に過ごしてもらええる雰囲気をつくり、意見や要望を気軽に話せるよう工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員は、毎朝のミーティングや二カ月に一回の会議で思いや要望を話し合い、また日々のケアの中でコミュニケーションを図り、その中で聞き取ったことを管理者や計画担当者が代表者に伝えている。  (外部評価) 毎朝のミーティングや会議だけでなく、日常のあらゆる場面において管理者と職員の隔たりがなく、自由に発言することができ、話し合っ実現できるよう取り組みがなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る限り利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修などの参加を心掛けている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 出来ていない。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 利用者の意思を尊重している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族と同じ思いで支援していきたい。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 福祉用具以外今のところ他のサービス利用ケースはありません。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 支援する側、支援される側という意識を持たずお互いが共同しながら和やかな生活、安心できる生活の場をつくる。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の方と同じような思いで支援していけるよう考えている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族と一緒に馴染みの場所や墓参りに出掛けたり、友人に会うのを楽しみに出かけている利用者もいる。  (外部評価) 家族を通じて友達や、古くからお付き合いしている方にホームに寄っていただけるよう呼びかけてもらっている。また、外出時には自宅の周辺を通るように工夫している。馴染みの美容院にも出かけてもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 皆で楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる場面づくりをするなど利用者同士の関係がうまくいくよう職員が調整役となって支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 必要に応じて相談できる体制に出来ている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者に積極的に声を掛け、特に入浴や散歩時等リラックスした時に話を聞く事で要望や思いを聞き取っている。会話から把握することが困難な利用者には、行動や表情等からも思いを把握するように努めている。 (外部評価) 趣味や食べたいもの、やりたい事など、利用者に好みを伝えてもらえるよう常に働きかけている。日頃、接する中で本人の意向を汲み取る努力もしている。得た情報は、フェイスシートに記録してホーム全体で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 生活歴についてはまだまだ分からない事があるが、会話や日々の生活の上で把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者様一人ひとりの生活のリズムを理解すると共に行動や小さな動作から感じ取り本人の全体像の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) 各利用者担当職員が生活の様子や健康状態を「アセスメント要約表」にまとめ、ミーティングで報告し、全職員で検討を加えたうえで介護計画を作成している。基本的には三カ月ごとに見直しているが、状態変化によっては随時の見直しを行い、柔軟な対応に当たっている。</p> <p>(外部評価) 担当職員が利用者の状態・問題点を把握して、アセスメントシートを作成し、当日勤務している職員でミーティングを行い検討し、介護計画を作成している。</p>	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 一人ひとりの日々の様子で、気づき、身体的状況を経過記録に記入し、職員全員で情報を共有し実践して介護計画に活かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 現在までケースはないが、グループ内の他事業所を利用することは可能である。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 現実にあまり出来ていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 事業所の協力医の他受診の通院は本人や家族の希望に 応じて対応している。  (外部評価) かかりつけ医の受診は基本的には家族が対応してい る。日頃の健康状態や生活の様子についてはお薬手帳 に記載してホーム全体で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 協力医院との看護師とは日頃の健康管理や医療面での 相談・助言・対応を行ってもらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には頻繁に職員が見舞うようにしている。ま た、家族とも情報交換している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 地域関係者とのチーム支援は出来ていない。本人、家 族さんの意向を踏まえた上で急変時等には家族と管理 者又はケアマネが同席し主治医と最善の方法で話し合 う。看取りについては、現時点では対応していない。 利用開始時に利用者及び家族に説明し、理解を得てい る。  (外部評価) 運営法人が様々な福祉施設や事業を展開しているの で、母体である医療機関の医師と家族の話し合いで、 利用者にとって安心できる方向を決めている。	管理者は常にホームや職員の力量を見極め、事業所と しての対応指針をつくり方針を共有しておく事が求め られる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 近隣に主治医がいて24時間連絡をとれる体制にある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害時のマニュアルと緊急連絡網を作成し、事務室に備えている。消防署の指導のもと、年一回の避難訓練を行っている。避難所は確保しているが、地域との協力は得られていない。 (外部評価) 夜間想定避難訓練を行い、2階からの避難が困難であることや、一時避難場所の確認が必要であること気づき対応を考慮している。夜間は特に近隣の援助が必要であり、普段から地域とのつながりを大切に、利用者の状況を知ってもらうなどの取り組みをしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報の保護について十分理解した上で日々のケアに当たっている。一人ひとりを尊重し、日々の声掛けにも注意している。事柄によっては、居室で個別に話し合うこともある。 (外部評価) 職員の守秘義務を徹底している。プライベートな空間におけるプライバシーへの配慮や、個人の尊厳を傷つける事がないように声かけにも気を付けている。また、書類の保管にも細心の注意を払うなど十分な対応がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入浴や食事、おやつなど自己決定して頂いているが毎日ではない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしい暮らし、日々大切にしているが時には職員側の都合を優先する場合もある。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替え時は出来るだけ本人の意向で決めている。髪型等も本人様の希望を取り入れ、馴染みの方の訪問カットもある。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎月一のつく日の昼食は、利用者の喜ぶお寿司である。職員は、支援の必要な利用者の傍に寄り添ってさりげなく介助し、利用者の誕生日には、家族を交えて外食を楽しんでいる。職員は、利用者が食事をすませた後で、各自が持参したものを食べている。 (外部評価) 栄養士が栄養バランスやカロリーを考えて立てた献立をもとに、利用者の好みを考えてメニューの工夫をしている。誕生日には家族を交えて外食を楽しむ事もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの方にあつた食事提供、水分摂取拒否みられる方には、声掛けしながら飲用して頂ける様にしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 就寝時、職員の見守り、介助で口腔ケアしている。また義歯は専用容器にポリドントを入れて衛生面に気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表で利用者ごとの排泄状況を詳細に記録して、排泄パターンを把握している。排泄パターンによってさりげなく声掛けや誘導するなど、排泄の自立に向けた支援に努めている。便秘がちな利用者については医師の指示を仰いでいる。	
			(外部評価) 排泄チェック表をもとにパターンをつかみ声かけと誘導をこまめに行い、トイレでの自立した排泄を目標にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 個々に対応して水分補給・咀嚼の声掛け、廊下での歩行運動に努めている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 週に二回は入浴出来るよう支援している。羞恥心や恐怖心を与えない様、タイミングを見計らって声掛け、ゆったりと入浴を楽しんでもらっている。	
			(外部評価) 入浴表を作成して週2回の入浴ができるよう支援している。入浴剤を使用し、利用者が気持ちよく入浴できるよう努めている。また、介助が必要な利用者については福祉用具を活用するなど、安全で安楽に入浴が楽しめるよう努めている。	利用者一人ひとりの生活習慣やその時々気持ちを大切に、利用者が好きな時に気持ちよく入浴できるよう支援していくことが求められる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) なるべく日中の活動を促し、生活リズムを整えるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々にお薬手帳を設けている。服薬時は、本人手渡し、きちんと服用できているか確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居前の生活スタイルを考慮しそれを活かした支援、その人らしい生活の支援。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者は、日常的に近隣の安全な道を散歩したり、近くの公園に出かけている。誕生日には家族を交えて外食を楽しんでいる	
			(外部評価) 交通量の多い地域なので、職員が少人数で交代で付添ながら散歩に出かけている。空港や海岸も比較的近いので、気分転換を兼ねて車で出かけて散歩を楽しむこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に外出時本人が支払って頂く工夫。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者様の希望に応じて、日常的に電話や手紙を出せる様支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 民家を改修したユニットと、隣接した2階建てのユニットは、廊下伝いに行き来できる。廊下には外出時の写真や折り紙等を飾っている。談話室もあり、来訪者もゆったりと過ごして頂いている。	
			(外部評価) 民家を改築したユニットと、2階建てのユニットを廊下で行き来することができ、解放感がある建物である。ユニットごとに趣があり、それぞれの良さが感じられる。談話室があり、来訪者や職員もゆっくり過ごす事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 広い和室やベランダもあり、独りでくつろげたりお茶を飲む事ができるスペースあり。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れた馴染みの家具や好みの物を持ち込まれている。	
			(外部評価) 居室は小ダンスや小物入れ、テレビ、冷蔵庫、ソファやいす、仏壇、家族の写真、趣味の品など自由に持ち込み、居心地のよい空間を作り上げている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 家庭的な建物であり、手すり、バリアフリーにもなっていて安全に生活が送れている。	